

新旧ストラテジーの変更経緯にかかる比較表

令和5年4月12日
 ジャパンリンクセンター事務局

「ジャパンリンクセンターストラテジー2023-2027」（以下、新規ストラテジー）における策定の流れ、および「ジャパンリンクセンターストラテジー2017-2022」（以下、旧ストラテジー）からの変更に至った経緯等を以下に示す。

○新規ストラテジー策定までの流れ

令和4年度		
5月	第1回 JaLC 運営委員会	会員に対し、旧ストラテジーの評価シート・アンケートを行った。
7月	第2回 JaLC 運営委員会	評価シート・アンケートの結果を受け、今後の方針を決定した。
9月	JaLC 運営委員、有識者による打ち合わせ	旧ストラテジーの変更点を議論し、新規ストラテジーの大枠を決定した。
10月	JaLC 運営委員、有識者によるメール審議(1)	9月の打ち合わせを受け、JaLC 事務局にて新規ストラテジー・アクション案を作成し、JaLC 運営委員、有識者らによって審議を行った。
10月	第3回 JaLC 運営委員会	メール審議(1)を受け、修正した新規ストラテジー・アクション案の審議を行った。
10-11月	JaLC 運営委員、有識者によるメール審議(2)	第3回 JaLC 運営委員会での議論を受け、修正した新規ストラテジー・アクション案の審議を行い、「対話・共創の場」での告知版を決定した。
12月	「対話・共創の場」での公表	ジャパンリンクセンター主催イベント第9回「対話・共創の場」にて新規ストラテジー・アクション案の紹介を行った。
1-2月	JaLC 運営委員、有識者によるメール審議(3)	「対話・共創の場」開催後アンケートに寄せられたコメントに対する対応を審議した。
3月	第4回 JaLC 運営委員会	ジャパンリンクセンターストラテジー2023-2027 を決定した。

○ストラテジー

- ・ 旧ストラテジーの表現が包括的であったことを踏まえ、表現の微修正が主である。
- ・ アクションとの関連を明確にするため、項番を付与した。
- ・ 今までになかった組織作りに関するストラテジーを追加した。(項番 6 を参照)

新規ストラテジー	旧ストラテジー	変更に至った経緯・補足事項
1. 国際的な協調を図りつつ、日本における学術リソース、学術環境、言語等に対応した DOI の登録、利活用環境を整備します。	国際的な協調を図りつつ、日本における学術リソース、学術環境、言語等の多様性を生かした DOI の登録環境を整備します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ JaLC は DOI を付与することに特化すべきであるとし、項番 1 のストラテジーとした。 ・ ストラテジー項番 2 と内容が重複するとして、「多様性を生かした」から「対応した」へ文言を変更した。また登録のみならず、DOI の利活用に関する文言を追加した。
2.学術において必要な様々なリソースへの DOI の登録を促進させます。	学術において必要な様々なリソースに ID を付与する環境を構築します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ JaLC としての目的は様々なリソースへの ID の付与ではなく、DOI の登録ではないかと考え、「ID を付与」から「DOI の登録」へ文言を変更した。 ・ リソースの拡大およびそれら DOI の登録数を増加させるという目的を持たせるため、「環境の構築」から「促進」へ変更した。
3.DOI やメタデータのオープンな利活用を推進します。	DOI やメタデータがオープンに活用されることを推進します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ 他のストラテジーと表現を揃えるため修正した。内容に変更はなし。
4. オープンサイエンスの推進に向けて、研究データの利活用の促進に取り組みます。	研究データの利活用を促進し、オープンサイエンスの実現に貢献します。	<ul style="list-style-type: none"> ・ より目的が明確になるよう、修正した。内容に変更はなし。

<p>5. DOI を活用する学術コミュニティの活性化に貢献します。</p>	<p>コミュニティの醸成に貢献します。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 旧ストラテジーの表現では抽象的であるため、より明確な表現になるよう、学術(DOI)コミュニティを活性化させる目的を明記した。
<p>6. コミュニティのニーズに応える、透明性の高い持続的な組織運営を目指します。</p>	<p>(該当なし)</p>	<ul style="list-style-type: none"> 現状、透明性や持続性に関して大きな問題があるわけではないが、よりコミュニティのニーズに応じていくために、会員や他の有識者の意見を柔軟に取り入れられるような、組織運営を目指すため設けられた。 研究コミュニティを支援する学術オープンインフラ組織が運営・維持されるためのガイドラインである POSI (Principles of Open Scholarly Infrastructure) が Crossref をはじめ推進されていること、DOI という永続的識別子を取り扱う JaLC は長期的で持続的な組織運営を行う必要があることも、ストラテジー6 を設ける経緯となった。

○アクション

新規ストラテジー	新規アクション	旧アクション	変更に至った経緯・補足事項
<p>1. 国際的な協調を図りつつ、日本における学術リソース、学術環境、言語等に対応した DOI の登録、利活用環境を整備します。</p>	<p>1-1. 日本の学術リソースへの DOI 登録インフラ環境を整備します。</p>	<p>1. 研究者が利用する様々なリソースに DOI を登録できるようにします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧アクション項番1が多様なリソースへの DOI 登録促進(メタデータスキーマ等システムの整備とユーザーへの利用促進)と DOI 登録環境の改善の2つの意味があるとして、分離させた。そのうち、ストラテジー項番1と関連の深い後者(DOI 登録環境の改善)をアクションとして定めた。 ・ DOI 登録環境の改善のうち、より重要なシステム的な側面として、インフラ整備に関する項目をアクション1-1とした。 ・ JaLC の目的は国内学術リソースへの DOI 登録であるとして、「日本の学術リソース」という文言を追加した。

	<p>1-2. 会員へ柔軟な DOI 登録支援を行います。</p>	<p>1. 研究者が利用する様々なリソースに DOI を登録できるようにします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧アクション項番 1 が多様なリソースへの DOI 登録促進(メタデータスキーマ等システムの整備とユーザーへの利用促進)と DOI 登録環境の改善の 2 つの意味があるとして、分離させた。そのうち、ストラテジー項番 1 と関連の深い後者(DOI 登録環境の改善)をアクションとして定めた。 ・ DOI 登録環境の改善のうち、過去に具体的なアクションとしての掲載はなかったが、JaLC はシステムのみならず、マニュアルの改善などの会員への DOI 登録支援に力を入れるべきとして、本項目を設けた。
--	-----------------------------------	--	--

<p>2. 学術において必要な様々なリソースへの DOI の登録を促進させます。</p>	<p>2-1. 研究者が利用する様々なリソースへの DOI 登録のため、メタデータ登録情報の整備を行います。</p>	<p>1. 研究者が利用する様々なリソースに DOI を登録できるようにします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧アクション項番 1 が多様なリソースへの DOI 登録促進(メタデータスキーマ等システムの整備とユーザーへの利用促進)と DOI 登録環境の改善の 2 つの意味があるとして、分離させた。そのうち、ストラテジー項番 2 と関連の深い前者(多様なリソースへの DOI 登録促進)をアクションとして定めた。 ・ 上記のうち、より重要な体系的な側面として、メタデータスキーマ等システムの整備についてアクション 2-1 として定めた。
	<p>2-2. ユーザーに対し多様なリソースへの DOI 登録と利用促進を行います。</p>	<p>1. 研究者が利用する様々なリソースに DOI を登録できるようにします。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 旧アクション項番 1 が多様なリソースへの DOI 登録促進(メタデータスキーマ等システムの整備とユーザーへの利用促進)と DOI 登録環境の改善の 2 つの意味があるとして、分離させた。そのうち、ストラテジー項番 2 と関連の深い前者(多様なリソースへの DOI 登録促進)をアクションとして定めた。 ・ 上記のうち、システムのみならず会員への働きかけが必要として、ユーザー

			への利用促進についてアクション 2-2 として定めた。
3. DOI やメタデータがオープンに活用されることを推進します。	3-1. 他の ID サービスとの連携を行い、学術インフラサービスや学術情報サービスとの連携を強化します。	3. グローバルな研究 IT インフラとして、研究に関わる他の ID サービスとの連携を強化します。	<ul style="list-style-type: none"> 旧アクション項番 3 は ID サービスとの連携のみ言及されているが、ORCID 連携については実施したこともあり、今後は大学での検索機能との連携や海外連携等を含め、他の学術コミュニケーションサービスとの連携を強化すべきであるとして修正した。
	3-2. JaLC におけるメタデータ検索機能の充実、DOI の利用状況の提供に取り組みます。	2. 外部機関とのメタデータ連携促進、メタデータ検索機能の充実、DOI の利用状況の提供に取り組みます。	<ul style="list-style-type: none"> 旧アクション項番 2 について、外部連携の箇所は新規アクション 3-1 に要素があるとして取り除き、JaLC 検索機能の充実などユーザビリティの向上としてユーザー向けに特化する形とした。
	3-3. ユーザーの意見を収集し、研究環境の変化に応じたサービス開発を目指します。	4. 研究環境の変化に応じた柔軟なサービス開発体制を構築します。	<ul style="list-style-type: none"> 旧アクション項番 4 は達成が困難であるとして、開発体制についてユーザーの意見をあつめ、それに基づいて開発を進める仕組みをつくるという実現可能な範囲内の内容のアクションへ修正した。 ストラテジー項番 3 のシステムレベルでのアクションとした。

4. オープンサイエンスの推進に向けて、研究データの利活用の促進に取り組みます。	4-1. 研究データの DOI に対して、国内外の組織と連携し、研究データ利活用を促進させます。	なし	<ul style="list-style-type: none"> 研究データの利活用について旧戦略には具体的なアクションがなかったため、追加した。
	4-2. 研究データ利活用協議会(RDUF)との協力関係をより強化します。	なし	<ul style="list-style-type: none"> 4-1 と同じく研究データ利活用協議会(RDUF)との連携について旧戦略では言及されていなかったが、研究データ利活用のさらなる促進のため、必要であるとして追加した。
5. DOI を活用する学術コミュニティの活性化に貢献します。	5-1. DOI 活用促進のために、イベント等を通じて、DOI の理解を深めると共に、ユーザー同士のコミュニケーションを促進させます。	5. 研究者、研究機関、図書館員、図書館、出版社、教育者、教育機関、IT 技術者、情報サービス提供者、研究助成機関、学会等を含む広範なコミュニティの醸成を図ります。	<ul style="list-style-type: none"> 新戦略項目 5 を達成させる、より具体的なアクションとなるよう修正した。
6. コミュニティのニーズに応える、透明性の高い持続的な組織運営を目指します。	6-1. DOI が長期的に運用されていくために、DOI 登録を担う日本の学術インフラ機関としてのあり方を検討し、拡充します。	なし	<ul style="list-style-type: none"> 本来の目的である DOI 登録活用の仕組みを継続していくことを目的として含めつつ、新戦略項目 6 に対応するアクションとして、組織の仕組みに関する具体的なアクションについて述べた。

以上